

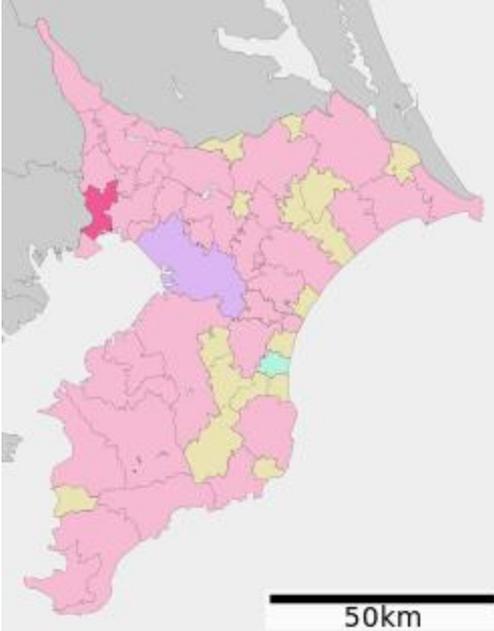
# 市川市

市川市は、江戸川および旧江戸川をはさんで東京都の隣、都心か-20km圏内に位置し、首都圏のベッドタウンとして発展してら15kmいる。

市中央部の市川、真間、菅野、新田、平田、八幡などは市の木であるクロマツも多く静かなたたずまいであり、これらの地区は戦前から東京都心(神田・日本橋・京橋等)、東京下町(本所、深川、柳橋、浅草橋等)の富豪が別荘を構え、戦後もお屋敷街を形成する高級住宅地となっている<sup>[1]</sup>。

八幡は市川市の中心部に位置する。JR総武線・都営地下鉄新宿線本八幡駅と京成本線京成八幡駅を中心に商業地となっているほか、市川市の行政上の中心地となっている。地域内には市川市役所、市川市消防局本部・東消防署、市川市民会館、中央公民館、不二女子高等学校が置かれる。

最近では高層マンションが数多くたてられ、近代的な街並みとなっている。



# 厚生歯科の歴史と

## クレール本八幡ビル

1977年本八幡東葉ビル3Fに厚生歯科として開業。

1982年(昭和57年5月)クレール本八幡マンションとして販売開始。

厚生歯科は、最初のテナントとして、同年、クレール本八幡ビルの2階部分に移り開業した。



# 交通の要: JR本八幡駅, 地下鉄本八幡駅, 京成八幡駅 3路線の駅の交わる場所

所要時間: 成田空港(京成線50分). 羽田空港(京成線45分),  
JR東京駅(JR線25分), 新宿駅(新宿線30分)

八幡新道(新道通り; 新行徳街道)

クレール本八幡歯科モール



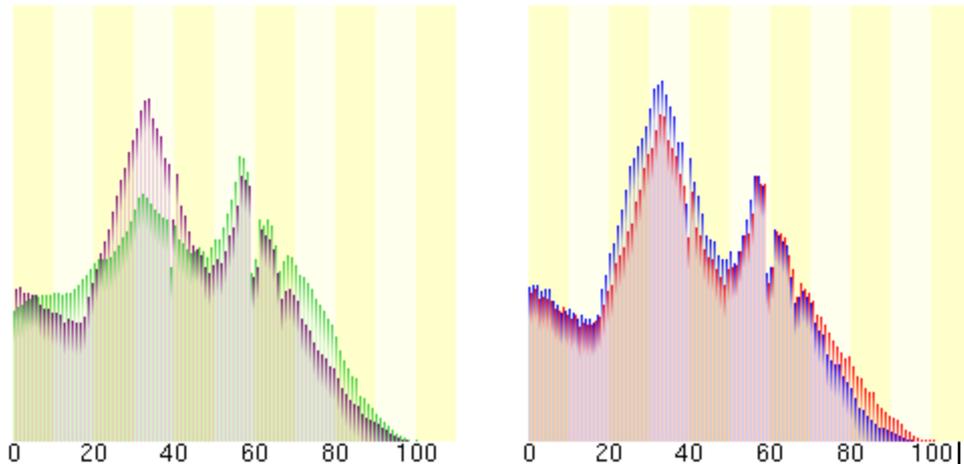
# 八幡 (市川市)

人口： 50万人に近づく、千葉県第3の  
大都市。20歳から60歳の労働人口が  
多い。

## 行政

財政は豊かであり、地方交付税のうち財源  
不足の自治体に交付される普通交付税の交  
付を受けていない。

過去には永井荷風、幸田露伴(次女の幸田文  
孫の青木玉も同居)、北原白秋など数多くの  
文人が好んで住み、市川に関する記述がある  
作品も多く、これら文人の足跡が市民団体や  
市などの手で「市川文学の散歩道」として残さ  
れている。歴史のある町なので古刹なども数  
多く残されている。



市川市と全国の年齢別人口分  
布(2005年)

市川市の年齢・男女別人口分布  
(2005年)

■ 紫色 — 市川市  
■ 青色 — 男性  
■ 緑色 — 日本全国  
■ 赤色 — 女性

市川市(に相当する地域)の人口の推移

<a href="#">1970年</a>	261,055人
<a href="#">1975年</a>	319,291人
<a href="#">1980年</a>	364,244人
<a href="#">1985年</a>	397,822人
<a href="#">1990年</a>	436,596人
<a href="#">1995年</a>	440,555人
<a href="#">2000年</a>	448,642人
<a href="#">2005年</a>	466,608人
<a href="#">2010年</a>	474,926人

[総務省統計局 国勢調査](#)より

# 八幡新道（新道通り；新行徳街道）と 永井荷風と昭和湯



永井荷風の晩年と同時期に、市川市八幡町で少年時代を送った著者のよもやま話。まだ田舎町だった昭和20年代の本八幡の暮らし・祭り・遊びがあれこれ描かれている。屋敷と農家の町だった戦前はほとんどなかった銭湯が、戦後人口の急増と共に増えて、本八幡駅周辺にはいくつもあったようだ。荷風も著者もあちこちの銭湯に行っている。著者はある時隣り合わせて、裸の荷風の体格のよさに驚く。そして刺青を目撃する。

混雑を嫌って営業時間外に特別料金で入る”闇湯”というのがあったというのも初めて知った。

今や、藪知らず裏の「藪の湯」も、総武線踏切り脇（現在の都営新宿線本八幡駅付近）の「昭和湯」も廃業し、まだ営業しているのは「菅の湯」だけとは寂しいものだ。

市川市在住者、特に本八幡利用者にはとても興味深い本である。



# 行徳街道

- 今井橋－南行徳－行徳－行徳橋－稲荷木－本八幡
- 行徳街道(ぎょうとくかいどう)は、[千葉県市川市](#)から[浦安市](#)にいたる街道。[千葉県道6号市川浦安線](#)の旧道の通称。  
現在はバイパスがあるものの、バスは[浦安駅](#)付近を除いてすべて旧道を走る。街道沿いには寺院や[江戸時代](#)の遺構などが残っている。

小名木川と江戸川を結ぶ新川が開削され、江戸川筋に新河岸(かし)ができる寛永9年(1632)以前、行徳の河岸は行徳4丁目の内匠堀(たくみぼり)辺りにあり、成田詣での船客はそこから権現道あるいは行徳街道を通過して八幡へ向かったようである。



# 市川に由縁がある著名人

- [幸田露伴](#)(小説家) - 戦後、菅野に移り住み、最期まで暮らす。
- [永井荷風](#)(小説家) - [1946年](#)(昭和21年)1月に菅野、[1957年](#)(昭和32年)3月に八幡町(現:八幡)と移り住み、最期まで暮らす。
- [北原白秋](#)(詩人・童謡作家) - [1916年](#)(大正5年)5月から6月末まで、真間の[亀井院](#)で過ごす。
- [郭沫若](#)(中国の政治家・文学者) - [1928年](#)(昭和3年)から[1937年](#)(昭和12年)まで、須和田に住む。楽山市との友好都市締結のきっかけとなった。
- [早川雪洲](#)(俳優)
- [東山魁夷](#)(日本画家) - 市川市名譽市民。[1945年](#)(昭和20年)から50年以上に渡り、最期まで市川市中山で過ごす。
- [幸田文](#)(小説家・随筆家) - 戦後、市川市に移り住み、父[幸田露伴](#)の最期を看取る。その様子を随筆「菅野の記」「葬送の記」などに描く。
- [岡晴夫](#)(歌手) - 「憧れのハワイ航路」で有名な人気歌手。八幡に、昭和20年代から最期まで住んでいた。
- [安岡章太郎](#)(小説家) - 幼時(大正末期)に市川に住む。市川を描いた作品も何作かある。
- [山下清](#)(画家) - 市川市内の養護施設「八幡学園」で[ちぎり絵](#)と出会い才能を開花させる。
- [式場隆三郎](#)(精神科医・医学博士) - 山下清の発見者・後援者、[式場壮吉](#)の伯父、式場病院創設者。
- [山本夏彦](#)(随筆家・編集者) - [1951年](#)(昭和26年)から[2002年](#)(平成14年)に亡くなるまで、八幡で暮らす。[1998年](#)(平成10年)市川市民文化賞受賞。
- [五木寛之](#)(小説家) - [1955年](#)(昭和30年)頃から2年ほど[北方町](#)で暮らし、近くの中山競馬場へ通う。その頃の暮らしを「風に吹かれて」などの随筆に描いている。
- [佐田の山晋松](#)-横綱時代並びに年寄退任後、[市川](#)在住。
- [井上ひさし](#)(小説家・劇作家) - 永井荷風に憧れ、[1967年](#)(昭和42年)から[1987年](#)(昭和62年)まで国分、北国分で過ごす。市川市文化振興財団理事長。
- [さだまさし](#)(シンガーソングライター) - かつて居住していた。
- [ささきいさお](#)(歌手・俳優・声優・ナレーター) - 欠真間在住。
- [プリティ長嶋](#)(千葉県議会議員・ものまねタレント) - [市川](#)在住。[2007年](#)(平成19年)4月の市川市議会議員選挙にてトップ当選。1期務めた後、[2011年](#)(平成23年)4月の千葉県議会議員選挙にて市川市選挙区から当選。
- [ヨネスケ](#)(落語家・タレント) - かつて居住していた。
- [古今亭菊之丞](#)(落語家) - 平成14年NHK新人演芸大賞・落語部門大賞受賞。[国分高校](#)卒。
- [崔岩光](#)(ソプラノ歌手) - [2000年](#)(平成12年)から在住。[2009年](#)(平成21年)市川市文化親善大使。
- [中村正人](#)(ミュージシャン、ドリームズ・カム・トゥルーのリーダー) - 市川一中、[国府台高校](#)卒。
- [華原朋美](#)(歌手、昭和学院小学校卒)
- [高橋英樹](#)(俳優) - [私立市川高校](#)卒。
- [後藤真希](#)(歌手) - 子供の頃、よく本八幡に遊びに来ていた。その縁で初ソロライブを[市川市文化会館](#)で行う。
- [エド・はるみ](#)(お笑い芸人) - [日出学園中学](#)・[高校](#)卒。
- [山岡聡子](#)(スノーボードハーフパイプ選手) - 和洋女子大学卒。
- [小川真由美](#)(女優) - 和洋女子大学短期大学部卒。
- [佐藤寿人](#)(Jリーグ選手、元サッカー日本代表) - 市川南高校卒。